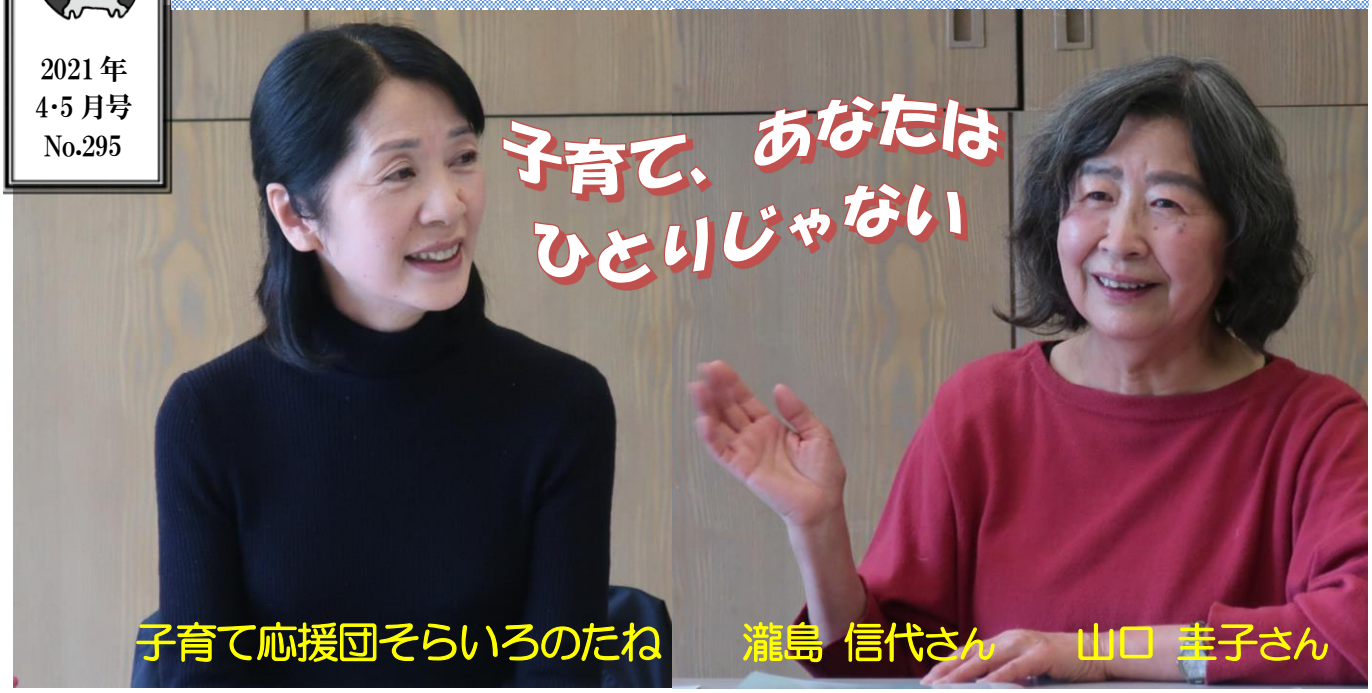
【まなび】と【であい】のひろば

公民館通信 たのしいまち

2021年
4･5月号
No.295

編集：たのしいまち編集委員
発行：多摩市立永山公民館 〒206-0025 多摩市永山1-5 ☎042(337)6661 FAX042(337)6003
多摩市立関戸公民館 〒206-0011 多摩市関戸4-72 ☎042(374)9711 FAX042(339)0491

ひと♥ネットワーク



赤ちゃんはかわいい。ずっと見ていても飽きない。でも、自由な時間が減り、夜も眠らせてくれない日々が続くとお母さんは疲弊する。話を聞いてくれる人がいないとさらに悲惨だ。

だから聞いて。お母さん、お父さん、子育ては自分たちだけで頑張ろうとしないで。子どもたちは昔から、地域の大人や少し大きい子が一緒に遊んで、助け合って一緒に育ててきた。あなたが声に出して、手を伸ばせば届くところに、話を聞いて力を貸してくれる人が必ずいる。あなたは一人じゃないよ。

代表の山口さんは、そんな思いで2002年、生協の仲間と「地域の保育サポーター養成講座」を企画した。助産師による沐浴指導や保育園での実習を終え、「そらいろのたね」を立ち上げる。それから18年。活動内容も充実してきた。参加無料の「そらいろひろば」は、2歳くらいまでの親子を対象に、毎週火曜日、諏訪のハーモニーカフェ2階で開催。いまは感染予防対策で予約制だが、親子でのんびり過ごせる安心な場所。ちょっとした心配ごとや困りごとなども話してみたり、わらべうた遊びなども楽しめる。「おうちカフェ」「トイレトレーニング」他、様々な講座とワークショップも開催している。また、有料の育児支援や家事支援はSOS時の助っ人。公的なサービスの範囲外の手助けがほしい時、お母さんが休みたいときに頼れる応援団なのだ。多摩市子ども家庭サポーター派遣事業などにも協力している。

現在メンバーは11名。代表の山口さんは大阪の出身。結婚後、夫の転勤で地方の街へ。自主保育で生かそうと保育士の資格を取り、地域の文庫に関わった。趣味は山登り。「散歩の達人」を自称し、近くの里山で自然観察を楽しむ。瀧島さんは日本百名山の一つ、利尻富士を擁する北海道利尻島の出身。現在、学童クラブに勤務しながら、永山地域で青少協の地区委員としての活動もしている。「仲間に恵まれて」と微笑む二人の願いはお母さんの笑顔と子どもの幸せ。絵本「そらいろのたね」を久しぶりに読みたくなった。

2頁〈永山公民館の主な事業〉 3頁〈関戸公民館の主な事業〉 4頁〈文庫ってなあに、文庫連会員がお薦めする本〉
5頁〈楽ちゃんの歩き倒すぞ！、“Life 生きてゆく”を観て〉 6頁〈マンガ、たのしいまちうた、季節風〉

永山公民館休館日　４月＝１・１５日、　５月＝６日・２０日⇨駐車場認証はございません

今年度多摩市公民館ではこのような事業を行う予定です！

永山公民館

「つどい・まなぶ・むすぶ」
駅前公民館にどうぞお越しください

学校・家庭教育支援事業

子育て支援講座
子育ての悩みを共有できる場作りとして継続した学びの機会を設け、さらには親同士の交流へとつながるような場を提供していきます。

子育てつどいの広場「ぴーかぶー」(原則第2・4木曜日)
保育室開放デー(原則第3月曜日)
館内の保育室を開放し、子育てに関する情報提供や、乳幼児期の親子が気軽に交流できる場を提供します。

科学等体験講座
夏休みや春休みに子どもたちや親子が参加できるような体験型講座を実施し、世代を越えた交流や視野を広めるきっかけを作ります。

家庭教育学級・講座
保護者に対して子育ての知識とともに、前向きに家庭教育に向き合えるような場を作り、家庭の教育力向上を目指していきます。

地域・生活課題を考える事業

ベルブぜみ
地域の課題、人材、学習意欲を掘り起こすきっかけとなる講座を企画します。

市民企画講座（通年）
市民の自主的な学習活動の振興を図るため、さまざまな学習の場を提供します。
（企画内容は、市民の団体・サークルによるもの）

地域課題講座
地域の生活課題を取り上げ、地域の方々と一緒に学ぶ講座を、地域の拠点であるコミュニティーセンター等と共催していきます。

地域活性化事業

ふるさと映画の上映会
こいのぼり(4月下旬～5月上旬)
永山フェスティバル(9月18日・19日)
クリスマスイルミネーション
さまざまな取り組みを通して地域を盛り上げます。

市民・時事問題講座事業

障がい者青年教室
障がいを持つ青年を対象に、余暇活動や仲間作りを支援します。（ボランティア随時募集）

時事・現代課題講座
その時々の課題をテーマに、さまざまな角度で見つめ学習していきます。

市民講座
市民生活に身近なテーマを取り上げ、地域での豊かな生活に結び付けていきます。

市民文化活動支援事業

さまざまな分野の文化芸術で、市民が主体となって企画や運営する催しを、公民館が支援することで、気軽に音楽や映像文化などに触れる機会を作ります。

サロンライトコンサート
（6月～3月の第2土曜日）
TAMA映画フォーラム
☆第３１回映画祭は１１月１３日～１１月２１日

★市制 50 周年記念事業

多摩市市制５０周年！これまで公民館でつどい、学んだ人の輪をさらにつなげていける記念事業を企画中！

情報発信事業

公民館通信「たのしいまち」の発行と広報等情報提供
永山公民館・関戸公民館２館の講座や各種情報を掲載した通信を年に6回発行します。市民ボランティアの編集委員とともに編集作業を行っています。

就学前のお子さんとその保護者の方を対象に、のんびり遊べる場所として、保育室を開放しています。公民館に遊びに来てみませんか？

～あそびとつどいの広場～
ぴーかぶー

子育て先輩ママのコーディネーターが常駐し安心して自由に遊ぶことができます。親子でゆったり過ごしてみませんか？

開催日：原則毎月第２・第４木曜日
時間：10時～12時30分（受付12時まで）
13時30分～16時（受付15時30分まで）
定員：各10組程度
※託児はありません。保護者同伴でご利用ください。
※入場無料
※申込みは不要

※事業の予定は、変更となる場合があります。

関戸公民館

地域・生活課題を考える事業をはじめ、コンサート、演劇、地域イベントとのコラボレーションなどを計画しています。今年度は市政施行５０周年の記念イベントもお楽しみください。

地域・生活課題を考える事業

地域貢献講座
地域課題を掘り起し、解決していく手法を学び、地域に根ざした活動につなげていくことをめざします。

第 16 回地域ふれあいフォーラム TAMA
グループ・団体の紹介、新たな地域活動のきっかけとする広場。夏の開催に向けて実行委員会を進めます。

地域ふれあいフォーラム

市民企画講座
市民の自主的な学習活動の振興を図るため、さまざまな学習の場を提供します（内容は団体が企画します）。

地域課題講座
地域の生活課題を取り上げ、地域の方々と一緒に考える講座をコミュニティセンターと共催します。

市民講座・時事問題講座

社会時事問題講座
「関戸地球大学院」(9/10 月)
環境、貧困、経済・資源等の国際的な課題や、地域で起きていることなどから社会とどう関わっていくかを考えます。市内の大学（大妻女子大学、恵泉女学園大学、多摩大学、桜美林大学、国士舘大学、東京医療学院大学）との共催で開催。

スマホ教室(各月)
日常生活には欠かせなくなりつつあるスマートフォンの基本的な使い方の学びをとおして、生活を便利で豊かなものにしましょう。

郷土史講座
多摩の歴史をたどり、郷土についての知識を深めます。
秋に開催。

郷土史講座

他にもいろいろな催しや講座などを企画します！
たま広報や多摩市公式ホームページに掲載予定です。
※事業の予定は、変更となる場合があります

地域活性化事業

せいせき桜まつり(4月)　**※令和3年度は中止**

せいせき朝顔市(7月予定)　**ロビーコンサート**

ヴィータコミューネ外観

聖蹟桜ヶ丘駅周辺でのイベントとのコラボレーションで、にぎわいを作ります。７階ロビーでは、ピアノ演奏等のロビーコンサートを開催します。

学校と家庭の教育支援

保育室開放デー(第1・第3水曜日)
館内の保育室を開放し、乳幼児期の親子が気軽に交流できる場を提供します。

子ども・親子茶道教室
茶道を通して「和のこころ」にふれます。

子育て安心講座
思春期の子どもたちの成長にかかる課題などを考えます。

子ども茶道教室

薬物乱用防止講座
危険な薬物から身を守ることを、中学生に伝えていきます。一般の方にも公開予定。

市民文化活動支援

多摩演劇フェスティバル・たまには芝居
今年度は、劇団ドラマ館からスタート(7月)。シリアス、喜劇、アクションなど９つの劇団のカラーをお楽しみください。

ヴィータマンスリーコンサート
様々なジャンルのコンサートを定期的に開催。

What's Jazz
本格的なジャズライブをお届けします。

市政施行 50 周年記念イベント
９月 17 日(金)　午後～
What's JAZZ　（予定）

「たのしいまち」うた　みなさまもチャレンジしてみてくださいね。楽しい作品、お待ちしております。

文庫ってなあに？

先月号（No. 294）で表紙に登場いただいた多摩市文庫連絡協議会さんに６号にわたって、本の紹介をしていただきます。今月号は、「文庫」についてのおはなしもしていただきました。

明治 39 年千駄ヶ谷にあつた「竹貫（たかぬき）少年図書館」が子ども文庫の始まりと言われています。戦後になっても日本の公立図書館サービスの発展は遅く、子どもにより良い読書環境をと願う母親たちが立ち上がり、1960～80 年代、子ども文庫は全国各地で急速に増えました。

多摩市での文庫の成り立ちは前号でお話ししたとおり、団地の集会所などに自宅から持ち寄った本を子どもたちに手渡していました。図書館のなかった時代、大勢の子どもたちが文庫で読書を楽しみました。 現在多摩市には図書館が７館あり、読書環境が整いつつあります。そこで文庫の役割は「読書施設としての役割」から、心に残る一冊と出会えるよう子どもたちに本を手渡す「ひと」へと変化を遂げてきました。

この文庫という組織は、全国各地にあり日本独特のものです。そして２年に一度全国交流集会を開き、講演会や様々な課題ごとに分科会が開かれます(親子読書地域文庫全国連絡会主催)。全国で文庫など子どもの本に関わっている人たちはこの場で繋がりあい、それぞれの悩みなどを共有し、2 年後の再会を約束し今後の文庫活動の原動力としています。

子どもの本に関心のある方、文庫連の活動を覗いてみませんか？

多摩市文庫連絡協議会　寄神光代

文庫連会員がお薦めする本

『小さな小さなウイルスの大きなはなし』

伊沢尚子／文　坂井治／絵　中屋敷均／監修　くもん出版／2021 年 3 月

コロナ禍真っただ中の今、ウイルスっていったいどんなものなの？細菌とどう違うの？どうやってふえるの？など、湧いてくるいろんな疑問に、この本は子どもにも分かりやすいように答えてくれます。ウイルスの感染の仕組みが丁寧に説明されていて、だからこそ手洗いが大事なことも良く分かります。ウイルスにはいろんな種類があり、病気の原因になる悪いものばかりではなく、人間にとってなくてはならないものもあるなど、生命の不思議を考えさせられる絵本です。

著者の伊沢尚子さんは、体験を通して科学の楽しさを伝えるサイエンスライター。多摩市在住。

多摩市文庫連絡協議会　コアラ文庫　高橋祥子

『脱プラスチックへの挑戦　持続可能な地球と世界ビジネスの潮流』

堅達京子（げんだつ）　+NHK BS1 スペシャル取材班／山と渓谷社／2020 年 2 月刊行

2050 年、海の中のプラスチックごみの量は、魚の量を超える！

空気や水、食物にもマイクロプラスチックが含まれ、その脅威は私たちの暮らしに迫り来る。石油という化石燃料から作られるプラスチックは、大量生産、大量消費の現代文明の象徴だった。いま、私たちの文明そのものを、急速に“循環型”で“脱炭素”の経済に作り変えていかなければ、温暖化が加速し、“地球の限界”に達すると科学者は警告する。気候危機の回避に必要なのは、パラダイムシフト。日本企業はこの大転換をビジネスチャンスに変えられるのか、そして私たちにできることは？

多摩市文庫連絡協議会　なかよし文庫　鈴木百合子

楽ちゃんの歩き倒すぞ！

With チャリンコ＆ウォーク「多摩の公園」探検隊 Vol.7　最終回

前回に引き続き、探検中に見つけた面白いものをご紹介します。最終回になりましたが、ワクワクするものがたくさんあって紹介しきれませ～ん！

【わあ、なにこれ！？ パート３】

4. 永山駅から北東に少し歩くと、馬引沢三角公園にたどり着く。名前の通り、住宅の隙間をうまく利用して、三角形の公園が作られている。こんなにギュッと狭いのに、立派な複合すべり台やスプリング遊具も完備。しかし、驚くのはまだ早い。なんと公園内に、郵便ポストが！ここまでハガキ入れに来たら、誘惑に負けてつい遊んでしまうわ。いや、回収に来る郵便屋さんだって、1日数回、お仕事を放り出して遊具で遊んでいたらどうしよう(笑)

5. 鶴牧西公園の西の崖を降りて行くと、かの有名なしだれ桜があり、そこから唐木田駅へ向かう途中に鶴牧西公園広場が長細く広がる。ここに、世にも奇妙な大きな石たちが存在する。1つは「すとーん」とひらがなで名前が彫ってあり、また違う石には「石ん子」と彫ってある。なかなかかわいい名前だ。かと思うと鎖でつながった石と石があったり、蜘蛛の巣のオブジェもあったりで、シュールなこと。切り落とした石の椅子も3個あり、直滑降なミニすべり台は、誰が滑る??

生きているからこそ、やらなきゃいけないことがある

～“Life 生きてゆく”を観て～

東日本大震災。2011年3月11日(金)14:46分発生。最大震度7が観測され、海岸から進入してきた津波は 40mを超える高さまで、陸上を這い上がった。さらに地震から約1時間後、津波に襲われた福島第一原子力発電所でメルトダウンが発生、原子力事故に発展した。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

ドキュメンタリー“Life 生きてゆく”(笠井千晶監督)が関戸公民館で上映され、生徒に3･11を伝えたいと話す教員の娘とともに鑑賞した。主人公の自宅が重機でバリバリと解体されたとき、涙が込み上げ、止まらなかった。津波被害の中で一軒だけ残った奇跡の家。けれど、6人家族のうち父母と二人の子の4人を失った悲しみの家だった。

津波による死者･行方不明者は、大震災全体の9割を超える。主人公上野さんの南相馬市萱浜(かいはま)にも大きな被害をもたらしたが、原子力事故のため避難指示が出され、行方不明者の捜索が後回しに。避難指示を拒んだ上野さんは、父と長男を一人で探し続けていた。震災から半年後に誕生した次女に、姉と兄の名前の一文字ずつと「生」で、「倖吏生(さりい)」と名付けた。奇跡の家は家族6人が過ごした思い出の家であり、新しい家族も見続けてくれていた。その家を解体するのに、どれほどの勇気が必要だったろう。重機が腕を振り上げる光景が苦しくて、涙が止まらなかった。

震災から5年と9か月後、同様に行方の分からない娘を探していた友人の木村さんに、奇跡の対面が訪れた。「探している人がいる限り可能性は0ではない」と上野さん。父と倖太郎君を今も探し続ける。なくした命とつながって、今を精一杯生きる。「生きているからこそ、やらなきゃいけないことがある」と前を向く。

上映は、「なくしたものとつながる生き方」をテーマとした企画の一環だった。突然の死を遺族はどう受け止めるか、講演会や展示会もあった。後日、東京五輪聖火リレー初日の最終区間の走者が上野さんだったと知った。震災で亡くした家族4人のため、「東北の教訓」を世界に広め、自身と同じ思いをさせないため、使命の走りだった。（月）

人が好き、文章やイラストを描くのが好き、パソコンが得意などなど、自分たちの手で楽しい紙面を作りませんか？
興味をお持ちの方は公民館にご連絡ください。　編集会議は、月１回程度です。

季節風　＜書く道具＞

私が就職した頃、事務用の筆記具といえば、透明の樹脂軸に黒いキャップの油性ボールペンが主流だった。中には、デスクペンを使う先輩もいた。

稟議書や文書など複写でないものは、デスクペン。複写の伝票や帳票を書くときは、筆圧のかかる油性ボールペン、という風に使い分けることが割と一般的であった。

隣の席にいる先輩が、デスクペンでサラサラと達筆な文字を書く姿には、たいそう憧れたものだ。

当時は、電卓はあったが、コピー機はようやく入り始めたばかりの時代。ワープロも共有のものが入ったばかりだ。やがて、人間工学に基づいた「握りやすいグリップ」が付いた太い軸の油性ボールペンが登場し、画期的なツールとなる。年度の切り替え時は特に、複写の伝票が山のようにやってくる時期で、とにかく大量に、そして筆圧をかけて書かなければならないこの苦行をいかに乗り切るかが課題であった。

やがて、ワープロやオフコンなどの「OA 化」が進められると、次第に手書きをする場面が減っていった。さらに、「IT 化」の時代に突入すると、多くの手書きがキーボード入力やマウス操作に置き換わり、ますます「手で書く」ことから遠ざかっていったのだ。今となっては、キーボードやマウスさえも操作せずに、タッチパネルやフリック操作（画面を指で滑らせる動作）に置き換わりつつある。

ボールペンもゲルインクや「なめらかな書き味」が特徴の、低粘度油性インクのものに進化していった。力が弱くても書きやすいのだ。かつてのように、力を込めてがりがりと書くことはほとんどなくなった。しかし、同時に漢字や単語が咄嗟に出てこなくなった。

手先・指先をある程度こまめに使って刺激があると、それは脳にも適度な刺激になるという。

近頃は、カラフルなインクとともにひそかなブームを呼んでいる万年筆で、小さな日記を手帳にしたためている。（沼の住人）

☆☆　編集後記　☆☆

☆新緑の映える葉桜の季節は、清々しいエネルギーを感じられるので、大好きです。それに、スギ花粉症のゴールが見える気がして…。（す）

☆水泳の池江璃花子選手が東京五輪代表入り内定、白血病を克服して。大相撲春場所優勝の照ノ富士が大関復帰、史上最大の復活劇。ＭＬＢ大谷翔平選手リアル二刀流開幕。ハラハラドキドキのスポーツに、癒しも勇気も反省も。（月）

☆コロナで帰省しなかった息子、久々に帰宅。帰り間際にふと「そうだ！おとと、プロポーズしたわ」「えええー!?」バタバタと両家顔合わせ。記者会見さながら、指輪や婚姻届をはさんで激写。こうして彼は、あっという間に巣立って行った。嬉。寂。（楽）

☆走るための靴を1足も持っていなかったので、勢いでランニングシューズを買いました。買っただけで終わらないことを祈ります。（ひ）

たいくつで、
のんびりだらだら
しっぱなし。
いつかのために
まずは
ちょうせん。なんでもやるぞ！

「たのしいまち」うた　みなさまもチャレンジしてみてくださいね。楽しい作品、お待ちしております。